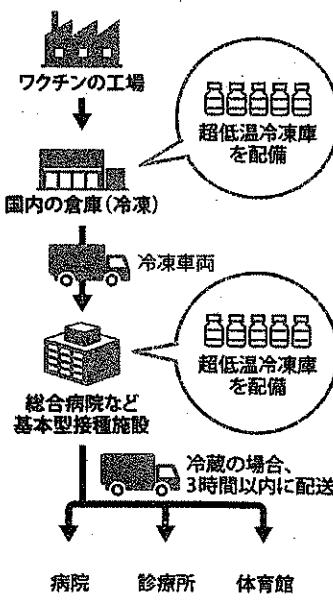


1/28毎日

集団接種準備手探り



新型コロナワクチンが供給されるまで
※ファイザー社ワクチンの場合



サテライト型接種施設

冷蔵状態で5日以内に使用

訓練は接種者役を務める人たちや、医師や看護職など計約60人が参加した。仕切りが設けられた会場で接種者は受付で接種券(クーポン券)を提示。体温や既往歴などを予診票に記入し、確認後、予診用アースに進んだ。医師は体調や既往症を確認。医師から問答無用と判断された接種者は接種用アースに進み、看護師がタマーのワクチンを注射するふりをした。

訓練は接種者役を務める人たちや、医師や看護職など計約60人が参加した。

厚生労働省と川崎市は27日、新型コロナウイルスのワクチンの集団接種を想定した訓練を市立看護短期大の体育馆で行い、報道陣に公開した。受け付けから接種までにかかる所要時間や人員体制などを検証するのが狙い。接種の実務を担う全国の自治体では準備が進むが、接種開始までの時間や情報がないまま、手探りが続いている。

コロナワクチン

「接種済み証」を市職員から受け取ると、副反応に備えて経過観察用の場所で15分間待機して終了した。訓練は、自治体の準備を後押しする狙いがある。集団接種は1994年の予防接種法改正以来、全国一律では行われておらず、ノウハウがない市町村が多い。集団接種を行つか否かは各自治体の判断で、個人が医療機関に出向く個別接種を選択するところもある。されどみられるが、集団接種を検討する自治体に流れを以メージしてもらうのが主眼だ。特に米ファイザー製のワクチンはマイナス75度の超低温管理が必要で、配達後は短期間で使い切る必要がある。厚生労働省の資料による接種施設の超低温冷凍庫で保存。配達は3時間以内とし、5日以内に使用する。接種6回分を1本に入れた容器(バイアル)を効率よく使い切る体制を組む必要がある。

クローズアップ

「集団接種」会場での主な流れ

- ① 受付付け
接種券(クーポン券)と身分証明書の提示など
- ② 予診票の記入
その日の体調や既往症、予防接種歴などを所定の予診票に記入。検温
- ③ 訓練(接種前検査)
記載項目の不備のチェック、初回か2回目か、接種間隔の確認など
- ④ 在診(医師)
体調や既往症の確認、予防接種の可否の判断。接種者が同意のサイン
- ⑤ 接種(医師または看護師)
接種
- ⑥ 接種済み証の交付(事務)
接種したワクチンが分かるシールを接種済み証に貼り、接種日・場所も記載
- ⑦ 経過観察(待機)
副反応に備えて15~30分待機

政府は、感染者に対応する医療従事者約1万人に2月下旬の接種開始を目指す。次いで①ほのかの医療従事者②高齢者③基礎疾患がある人、高齢者施設の従事者――の順に行いつ。

政府はファイザー社と年内に7200万人分の供給契約を結んでおり、他の2社を含めて、「3億1000万回分を確保できる」(菅義偉首相)とする。高齢者(65歳以上)への接種開始について河野太郎行政改革担当相は27日、4月以降になるとの見通しを示した。一般人の接種は、優先接種の進み具合と供給量を踏まえて始める。

新型コロナワクチン接種会場運営訓練で行われた
ワクチン注射の訓練 川崎市
市役所2階 梅原承撮影

【石田奈津子、横田愛】

想定訓練 予診で滞留も

1/28(日)

医師・看護師 確保難題

ワクチン接種の開始を前に、各自治体では担当部署を新設するなど準備が進みつつある。こうした中、担当者は「医師や看護師の確保だ。

厚労省は25日の接種説明会で、65歳以上の高齢者に対して接種開始から3カ月以内に一人あたり2回の接種を終える目標を示した。人口10万人で高齢化率27%の自治体では、接種間隔を考慮すると週あたりの接種回数は6000回になる。

「厳しい要求だ」。神奈川県内の市担当者は「人材を確保できるか。新型コロナ対応を迫られる病院も多くの医師や事務職員も必要で、複数の人材派遣会社などに問い合わせているものの、

色よい返事はない。

他の自治体も人手の確保が気かかりだ。ワクチン接種はおむね指定会場での集団接種となりそうだが、

千葉市の担当者は「（会場の規模感は）医師の確保状況による。場所を決めて医師が集まらなければ話が進まない」。1日の接種可能な人数も医師の確保具合によって変わっている。

単体では医療従事者の確保が難しい自治体もある。神奈川県箱根町の担当者は「町内の医師が集団接種にかかりきりになると通常の医療が滞る」と話す。隣の小田原市を通じ、小田原医師会から医師を派遣してもらえるかを協議中だという。

「ワクチン接種の会場確保に着手し始めた自治体もある。人口約100万人の仙台市。郡和子市長は19日、集団接種を実施する方針を得

て円滑に接種できる段取りを考えたい」と語る。

東京都墨田区も集団接種会場を4カ所と想定し、個別接種に向けて救急病院7院に協力を求めた。ワクチン保管のためマイナス75度前後に保つ冷凍庫を独自に2台確保、国の割り当てど

明らかにした。市内に60カ所ある市民センターを候補地の一つとし、4月中の利用予約を停止するなど準備を始めている。早ければ4月から65歳以上の高齢者への優先接種が始まる。ただし課題もある。要介護者や福祉施設の高齢者で接種会場に出向くのが難しい人には、どう対応するのか。

昨年10月時点の介護保険事業状況報告によると、特別養護老人ホーム入所条件となる要介護3～5の人は全国で約2533万人で、全員が「ワクチン接種」を希望する。仙台市には特養施設や介護老人保健施設、認知症高齢者グループホームなども約200施設あり、1万人近くが入る。市は医療スタッフの派遣も検討しており、担当者は「（要介護者らが）定期的に受診している医療機関の協力も得

る」と強調した。

政府が神経をとがらせるのは、開発直後ゆえに副反応を含むデータ蓄積が少ないためだ。副反応の状況次第で接種が滞る恐れもある。政府は、先行接種する医療従事者約1万人を対象に、健康状況調査を実施。また、一般の接種者の一部には、1カ月の追跡調査を行う。副反応の報告や評価体制も強化する。【金泰連、横田愛】

米製薬大手ファイザー社のワクチンは、ウイルスの遺伝情報を担うRNA（リボ核酸）の一部を体内に入れ、抗体を作る新しいタイプのワクチンだ。臨床試験では、倦怠感や発熱なども報告され、海外ではアナフィラキシーショックという全身のアレルギー反応がまれに起きることも確認された。予想外の副反応が出る可能性もあり、厚生労働省は対応を強化している。

高齢者の優先接種が始まると、自治体が準備を進めながら、副反応が疑われる患者を専門的に診察する医療機関の確保だ。疑われる症状が出れば、接種した医療機関やかかりつけ医を受診。必要に応じて専門的な医療機関の紹介を受ける。総合診療科を備えた総合病院などを想定する。

川崎市の訓練会場では待機スペースや救護室を設置。本番ではじみアナフィラキシーの治療に使う注射薬「エピペン」を備える予定という。訓練に参加した岡部信彦・川崎市健康安全研究所所長は記者団に「アナフィラキシーはすぐ治療すれば、かなりの方はその場で治せる。使わない可能性が高くても、最低限の薬剤などは命に関わるので必ず備えておく必要がある」と強調した。

政府が神経をとがらせるのは、開

合させ約20台を用意する計画だ。着実に進む準備作業だが、水を差す出来事もあつた。国は接種券の送付時

期を3月1～12日想定としたのに、今月25日の説明会で3月中旬に先送りした。早めの準備を心がけてきた区の担当者は「全ての

スケジュールが狂う」と困惑する。

現時点では具体的なワク

チン供給量の説明がないこ

とも不安の種だ。区の担当者は、「高齢者の接種期限までに終えられるかどうか」

と話す。【石田奈津子、小

鶴治孝志、竹内麻子】

厚労省、副反応に備え

政府が神経をとがらせるのは、開発直後ゆえに副反応を含むデータ蓄積が少ないためだ。副反応の状況次第で接種が滞る恐れもある。政府は、先行接種する医療従事者約1万人を対象に、健康状況調査を実施。また、一般の接種者の一部には、1カ月の追跡調査を行う。副反応の報告や評価体制も強化する。【金泰連、横田愛】